



参考資料

オンプレミスや VMware サービス プロバイダでファイル共有を容易にできる VMware Project Octopus のベータ版の提供を開始

概要：

VMware Project Octopus beta は、VMware のエンド ユーザ コンピューティング製品群の重要コンポーネントとして、あらゆる規模の企業向けのセキュアなデータ サービス (Data-as-a-Service) を実現します。VMware Project Octopus を使用することで、IT 部門はデバイスを問わず誰とでもデータを共有し、コラボレーションを簡単かつセキュアに行う方法を従業員に提供できます。

オンプレミスでの導入、または VMware サービス プロバイダにより提供される VMware Project Octopus により、IT 部門は使用状況を管理し、データ アクセスおよび組織内または外部の協力会社との共有ポリシーを設定できます。これらのポリシーとプロビジョニングは、VMware Horizon Application Manager™ により集中管理されます。VMware Horizon Application Manager はアプリケーション、仮想デスクトップ、およびデータ リソースへのユーザ アクセスを仲介する統合されたポリシーおよびアクセス権限管理の中心になります。そのため、ユーザがプライベート クラウドおよびパブリック クラウドの作業リソースに、どのデバイスでアクセスした場合も、シンプルかつシームレスなエンド ユーザ エクスペリエンスが実現されます。

既存のインフラ (Microsoft Active Directory、VMware vSphere®、VMware View™ など) にシームレスに統合できるように設計された VMware Project Octopus は、オープンな API 経由で任意のレガシー、ソフトウェア・アズ・ア・サービス (SaaS)、または独自開発アプリケーションにも拡張できます。

VMware Project Octopus の機能とメリット

VMware Project Octopus によって、ユーザはデータを簡単に共有できるようになるほか、管理者にはプロビジョニングとポリシーを一元的にコントロールできる万全の管理環境が提供されます。

場所とデバイスを問わないアクセス：VMware Project Octopus により、従業員は任意のデバイスでどこからでもデータにセキュアにアクセスできるため、業務の生産性が向上します。容易にファイルにアクセスし、組織内外の人と共有、管理、検索、更新することも可能です。VMware Project Octopus はデスクトップ (Mac や Windows)、Web (Firefox、Safari、Chrome および Internet Explore) またはモバイルとの同期 (iPad、iPhone、Android smartphone、Android Tablet) からデータのアクセスや共有を従業員に提供することができます。

管理者による一括管理：IT 管理者は設定したポリシーを自ら管理することで、グループ、ユーザ、または全体でアクセスおよび使用状況を把握し、ストレージ (クォータ)、外部アクセスと共有、ファイルの保存、およびバージョン管理を決定できます。また、監査に対応したすべてのイベントログも記録されます。

柔軟な導入オプション：VMware Project Octopus は、自社のプライベート クラウド、オンプレミス、またはサービス プロバイダから提供されるクラウドのいずれの環境でもセキュアな運用が可能です。VMware vSphere 上でアプライアンスとして動作するため、インストールが容易で、ストレージの柔軟性、セキュリティ、およびビジネス継続性といった vSphere のメリットをすべて活かすことができます。

入手方法

VMware Project Octopus beta は条件を満たしたお客様にお試しいただくベータ版として 2012 年の第 2 四半期に提供されます。詳細および申し込みフォームについては、<http://vmwareoctopus.com> (英語サイト) をご覧ください。

VMware、VMware View、VMware Horizon、VMware Horizon Application Manager および VMware vSphere は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。他のすべての名称ならびに商標は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

将来予想に関する記述

本プレスリリースには、過去または現在の事実に関するもの以外に、将来予想に関する記述 (forward-looking statement) が含まれており、1995年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) の「セーフハーバ」条項 (the safe harbor provisions) に準拠しています。これらの将来予想に関する記述は、VMware Project Octopus にて提供される機能、それらの製品の入手性、将来の IT の進化への期待、VMware 製品の役割およびそれら製品がユーザーにもたらすメリットなどの VMware の未来の技術に関する計画を含みますが、これらに限定されるものではありません。実際の結果は、特定のリスク要因により、将来予想に関する記述で予想された結果と大きく異なる場合があります。リスク要因には、(i) iTHC 機能を当社のベンチマークサービスに統合する能力、(ii) 世界的な経済状況や市場状況の悪化、(iii) 一般消費および IT 消費の落ち込みまたは遅延、(iv) 価格競争、業界再編、新規競合会社の仮想化市場への参入、競合会社による新製品の投入およびマーケティング施策などの競合状況 (v) お客様の新製品の開発、および新しい製品、クラウドコンピューティングなど新たなコンピューティング戦略へ移行する能力、(vi) お客様の新興技術に対する許容性 (賛同の有無)、(vii) 仮想化ソフトウェアおよびクラウド プラットフォームおよびデスクトップ コンピューティング プラットフォームの飛躍的な技術革新および市場変化、(viii) 製品開発スケジュールの変更、(ix) 当社の独自技術のマネジメント能力、(x) 当社が優秀な従業員を採用、維持できるかどうかなどの不確定要素が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

これらの将来予想に関する記述は、現時点での予想に基づくものであり、状況、重要性、価値、および効果の不確定要素と変化、ならびに最新の報告書 Form 10-Q、Form 10-K、Form 8-K を含む米証券取引委員会に提出した文書に詳しく記載されているその他のリスクによる影響を受けることがあり、実際の結果が予想と異なる可能性があります。当社は、このリリース後にこれらの将来予想に関する記述を更新する義務を一切負いません。